

令和3年度教育事業
全国高校生体験活動顕彰制度「地域探究プログラム」
「オリエンテーション合宿 in 能登」

全国高校生体験活動顕彰制度「地域探究プログラム」とは

国立青少年教育振興機構が令和2年度に新設した「全国高校生体験活動顕彰制度『地域探究プログラム』」は、高校生の体験活動を通じた成長を目指し、改訂された学習指導要領のキーワードである「探究」の手法を用いて学習を深める制度である。取組みを段階的に分けており、ステップⅠ「地域探究トライアル」では「探究」の学びと実践を、そしてステップⅡ「地域探究アワード」では意欲の高い高校生向けに実践活動の顕彰を行う。

1 趣 旨

高校生が地域づくりや地域の課題解決などに関する体験活動を通して、問題発見・解決能力を身に付け、新たな価値を創造する人材育成に資するとともに、それぞれの実践活動の成果や自身の成長を適切に評価し、青少年の体験活動に関する社会的な認知を高める。

2 日 程

(1) 期 日 令和3年5月25日(火)、6月17日(木)、6月18日(金) 泊3日

(2) 参加者 石川県立宝達高等学校 第2学年 41名(男子19名 女子22名)

(3) 講師及び研修内容

① 講 師

[講話「地域づくりの実践」]

高野 誠鮮 氏(日蓮宗僧侶(妙法寺住職) 総務省 地域力創造アドバイザー 新潟経営大学特別客員教授)

[FW①・②]

森川 みなこ 氏	社会福祉法人弘和会 たきの一ほーむ風和里(ふわり) 羽咋事業部長兼管理者
崎田 智之 氏	羽咋市 産業建設部 商工観光課 課長補佐 兼6次産業創生推進担当主幹 兼観光戦略推進担当主幹
松井 正人 氏	百万石蝶談会 事務局
橘 英子 氏	宝達山 山の龍宮城 元管理人
中野 知幸 氏	羽咋市教育委員会文化財室 羽咋市歴史民俗資料館 係長・学芸員
室谷 加代子 氏	農家レストラン「むろたに」
西井 康雄 氏	石川県 土木部河川課 防災海岸グループ 課長補佐

[ガイダンス、講義・演習①～③、発表①]

下澤 陽一(国立能登青少年交流の家主任企画指導専門職)、他 国立能登青少年交流の家職員

② 研修内容（カリキュラム）

分野	No.	科目名	月/日	時間	探究のプロセス	主な活動内容	活動場所
導入	1	ガイダンス	5/25	14:05-14:55	—	地域探究プログラムの内容・スケジュール等の確認。	宝達高校
	2	講話 「地域づくりの実践」	5/25	15:05-16:00	—	「地域づくりの実践」の講話を聴き、今後の活動に向けて意欲を高める。	宝達高校
	3	FW① 「地域の魅力を発見」	6/17	9:10-13:00 昼食 / 休憩含む	—	FWを通して、地域づくりに関する取組についての活動を体験し、その魅力を発見する。	各FW先
	4	講義・演習① 「地域理解」	6/17	13:00-14:50	—	情報マップ作りを通して、FW①の調査内容の全体像を把握する。	交流の家
探究のプロセスの実践	5	講義・演習② 「課題解決の基礎」	6/17	15:00-16:50	課題の設定	FW先の問題点を明らかにし、その解決策や質問を考える。	交流の家
	6	FW② 「地域課題の探究」	6/18	9:10-11:00	情報の収集	FW先の講師との意見交換を通して、より有効な解決策を考える。	各FW先
	7	講義・演習③ 「地域課題の探究」	6/18	11:10-15:50	整理・分析、まとめ	調査内容や問題点の解決策をポスターに整理し、まとめる。	交流の家
	8	発表①	6/18	16:00-16:50	表現	作成したポスターを用いて、ポスターセッションを行う。	交流の家
地域課題の取組	9	講義・演習④ 「行動計画の基礎」	6月18日以降の高校の授業で実施	課題の設定	実践活動での行動計画を作成する。	宝達高校	
	10	発表②		—	今後の実践活動の行動計画を発表する。	宝達高校	
	11	実践活動のためのガイダンス		—	実践活動上の安全管理や社会のルール・マナーを理解する。	宝達高校	

③ FW概要

ア 福祉系コース（講師：森川氏）

地域の高齢者福祉や介護の現状や課題について、福祉施設職員や利用者、地域の高齢者等との交流を通して調べ、地域の課題とその改善に向けた取組を探究する。

イ 生物系コース（講師：崎田氏、松井氏、橘氏）

能登の里山里海は、世界農業遺産にも認定され、そこに生息する生物の多様性やそこに暮らす人々の文化・伝承・景観等が評価されている。生物系コースでは、能登の里山にスポットを当て、その魅力や現状・課題について、「のとしし大作戦」および宝達山ファンクラブの取組を調べることを通して、地域の課題と改善に向けた取組を探究する。

ウ 文化系コース（講師：中野氏）

羽咋市の獅子舞は能登地域のなかでも非常に熱心に行われていることで知られる。こうした獅子舞をはじめとする地域に受け継がれる伝統的な祭りや文化の継承における現状と課題について調べ、その改善に向けた取組を探究する。

エ 環境系コース（講師：室谷氏、西井氏）

環境問題は、我々が解決しなければならない大きな課題である。食品ロス・ごみ処理問題と千里浜海岸の消失という二つの事例を取り上げて調べることを通して、地域における課題とその改善に向けた取組を探究する。

3 成果と課題

本事業に参加した石川県立宝達高等学校第2学年の生徒から、今回のオリエンテーション合宿での学びについての振り返りをしてもらった。振り返りには、当施設が作成した振り返りシートを使用した。この振り返りシートの生徒の記述から、FWでの学びと成果と課題について以下にまとめた。

(1) FWでの学びについて（生徒の記述より一部抜粋）

① 福祉系コース

- ・高齢者の生活を制限して健康を維持させるよりも、高齢者の自由を尊重させることが大切だと学んだ。また、高齢者の家族だけでなく、医者や地域と連携することも大事だと学んだ。
- ・認知症は脳の細胞がゆっくり死んでいく「変性疾患」と呼ばれる病気でもあり、脳の細胞が死んでしまったり、働きが悪くなったりするため、様々な障害を起こし、生活をすする上で支障が出てしまうことを学べたので、おじいちゃんやおばあちゃんと会話するときに、ゆっくりはきはきした言葉で会話したい。



【高齢者との交流（福祉）】

② 生物系コース

- ・「今あるものを大切にすること」と「命の尊さ」を学んだ。今ある命を、私たちはいただいている。そのことに深く気づくことができた。
- ・イノシシの増加による米農家の減少や、宝達山整備のボランティアの減少など、人手不足が深刻化していることが分かった。



【田畑の現状見学（生物）】

③ 文化系コース

- ・獅子舞という文化は地域活性化につながり、地域の方との交流の場になる大切なものであると改めて気づいた。
- ・テーマ設定からゴールのつながりの大切が分かった。コロナ禍でも、祭りを伝承していくことがどんなに大切か分かった。



【神社での聞き取り（文化）】

④ 環境系コース

- ・ゴミ問題には、一人ひとりの意識が大切で、分別に対する知識と分別の大切さを学ぶ必要があると感じた。
- ・実際に体験や見学を通して調べ、自分の目でしっかり見ることによってさらに状況を知ることができた。



【エコクッキング体験（環境）】

(2) 生徒のオリエンテーション合宿の学びにおける成果と課題（生徒の記述より一部抜粋）

① 成果

- ・互いの意見を否定せず、サポートし合う大切さを学んだ。また、実際に見たり聞いたりすることで、新たな発見があった。
- ・情報マップ作りでは、情報と情報をつなげて視野を広げたり、考えを深めたりすることができた。
- ・主軸となる問題決めの大変さや重要さ、多くの情報から大切なキーワードを選ぶ難しさを学んだ。
- ・色々な人の意見を聞くことで自分では考え付かない考えを出すことができ、普段の授業では学べない経験ができた。
- ・ポスターのレイアウトを考えたり、解決策の質を向上させたりすることは1人では難しいが、チームで意見を出し合ったり、作成したポスターを客観的に見て直したりすることで質を向上させることができた。
- ・中学校や1年生時よりも、自分の案や考えをはっきりと言えるようになった。
- ・ポスターセッションでは、自分の発言部分はもちろん、他の人の説明の補足も少しずつできるようになってきた。



【ポスターセッションの様子】

② 課題

- ・改めて意見をまとめるのは難しいと痛感した。こういった機会でもとのコミュニケーションを重ねていき、悪いところをなくしていきたい。
- ・突飛な意見、新たな意見を出すのが苦手。
- ・情報を絞ったり、抜き出したりするのが苦手で、わかりやすくまとめることが難しい。
- ・積極的な質問や会話があまりできていなかったと感じた。事前に質問を考えるなどの準備をすることが不十分だったので、しっかり調べることが大切だと感じた。
- ・問題の解決策を考える時には、より具体的なアイデアを出せるようにしたい。
- ・発表の時、緊張して聞いている人の方を見て話すことがあまりできなかった。

(3) 運営面における成果と課題

① 成果

- ・「とても丁寧に指導していただき、発表も予想以上の出来だった。」「様々なプログラムが組み立てられており、生徒たちなりに一生懸命取り組めた。」という参加校教員の評価もあることから、オリエンテーション合宿が生徒の成長に結びついたと言える。
- ・3日間の日帰り日程で実施することとなったが、参加校担当教諭との連携を密にしたことで、高校の意向に合わせた事業運営（講師、FW先の選定、講義・演習のレベルの調整等）を行うことができ、生徒・教員の事業に対する満足度は100%となった。

② 課題

- ・フィールドワーク先によっては、体験活動や講師との意見交流に時間が不足することがあった。日帰りだったこともあり、時間に余裕がなかった。移動時間や活動内容等のバランスも考慮し、フィールドワーク先を検討したい。
- ・ポスターセッションでは、一つの会場で複数のグループが発表すると、声が聞こえづらい。複数会場に分かれて発表することも検討したい。